

## 核のない未来のために

三和中学校 一年 早乙女 稔奏

一九四五年八月六日午前八時十五分、広島に原爆が落とされた。広島は壊滅的な被害を受け、多くの人々が犠牲になり、街は焼け野原となりました。

あの日、広島の空に落とされた一発の原子爆弾は、一瞬にして多くの命を奪い、家族や友人、大切な日常を消失去りました。瓦礫の下で声を上げることもできずに命を落した人々、助かっても重い後遺症に苦しむ被爆者たちの存在を私たちは忘れてはいけないと思います。原爆はただの兵器ではなく、それは人間の命や尊厳、未来までも奪う非人道的な存在です。あれから八十年近くが経つ今でも、放射線の影響に苦しむ人々がいます。戦争が終わっても、原子爆弾の恐怖は終わりません。それにもかかわらず、世界ではいまだに核兵器の保有や開発が続いているています。

ウクライナやミャンマーをはじめとする国々では、戦争や内戦によって多くの人々が苦しんでいます。戦場に立たされるのはいつも罪のない市民たちで、子どもたちが学校に行けず、未来への希望が消えていつてしまします。

もしも、今まで核兵器が使われるようなことがあれば、広島や長崎で起きた悲劇が何度も繰り返されることになってしまいます。科学技術が進歩する現代においては、被害は当時以上に莫大になる可能性があります。誰かの「ボタン一つ」で、何百万という命が消えてしまう現実を私たちは見て見ぬふりをしてはいけないと思います。核兵器は抑止力として必要だという意見もあるが私はそうは思いません。人間が作ったものである以上、いかが誤つてあるいは意図的に使われる可能性があります。そして一度使われれば、取り返しのつかない悲劇が再び繰り返されてしまいます。だからこそ、私たちは「非核平和」という理念を掲げ、行動する必要があると思います。戦争のない世界、核兵器のない地球を目指すことは、決して理想論ではないです。小さな一步でも、平和を願う心を持つことから始まると思います。過去の悲劇を学び、未来に生かすこと、それが広島・長崎の犠牲者たちに対する私たちの責任であると思います。

今の時代に生きる私たには声を上げる自由がある。平和の尊さを語ることができる。その自由を使って、世界に平和の大切を訴えていきたいです。そして、二度と核兵器が使われることのない世界を、次の世代へと引き継いでいきたいと思います。

私たち一人ひとりが「平和の担い手」であるという意識を持ち、行動していくことで、きっと未来は変えられると思います。戦争のない、核兵器のない、安心して暮らせる世界を実現するために、今日という日から、できることを始めていきたいです。